

厚生労働大臣 殿

子宮頸がんワクチン（HPVワクチン）接種事業の中止を求める署名

子宮頸がん予防ワクチンとしてサーバリックスおよびガーダシルが認可されてから2013年3月31日までに両剤あわせて328万人がこの接種を受けたとされています。そして1968件の副反応の報告があり、その内重篤は878件となっており、今も多くの少女たちが治療法もわからずその被害に苦しんでいます。6月14日にはその実態が考慮され「積極的な接種勧奨を一時中止する」との決定が出されました。

私たち全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会には、3月25日に会が発足して以来600件を超える相談が寄せられています。中にはワクチン接種後の副反応と医師に認めてもらえず、厚生労働省の報告に含まれないものも多くあるのです。一方で、このワクチンは開発されてから日が浅く、薬剤の添付文書には子宮頸がんを予防する効果は確認されていないとあります。またがんを引き起こすとされる15種類のウイルスのうち2種類にしか対応しておらず、ワクチンを接種しても定期健診が必要としています。このように効果は分からず被害が多いワクチン接種により、これ以上少女たちに苦しみを広げないために以下のことを求めます。

1. HPVワクチン（子宮頸がん予防ワクチン）接種事業を直ちに中止すること
2. 被害者への手厚い救済と治療法の確立
3. 当該ワクチンに対する副反応の究明
4. 当該ワクチンを接種したすべての人に対する健康被害調査の早期着手

全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会

書類送付先 166-0003 杉並区高円寺南3-62-10 小鈴荘 奥山気付

締切：2013年9月30日

お名前	住所（都道府県名から）